

学校だより

10月号

やさしい子 たくましい子 考える子



黒門

発行日 令和7年9月30日
発行者 台東区立黒門小学校
校長 飯塚 雅之

ハードワークの本当の意味

校長 飯塚 雅之

先日、5年生の有志によるビーチボールバレーの練習が始まりました。2月の大会に向けて練習を重ねます。始めの会で子供に「2つのワーク」を胸に頑張ろうと話しました。

その2つのワークとは、「ハードワーク」と「チームワーク」です。

チームワークは、仲間と力を合わせるという意味で誰もが分かりやすくイメージできる言葉です。

一方で「ハードワーク」には、少し違和感をもたれる方もいらっしゃるかもしれません。「きつい仕事」「つらい作業」といった響きを感じる方が多いのではないのでしょうか。

しかし、英語の hard work は「勤勉」「一生懸命取り組むこと」という前向きな意味があります。スポーツの世界でも、試合の結果だけでなく、日々の地道なトレーニングや練習に真剣に取り組むことを指して使われます。発明王トーマス・エジソンは次のような言葉を残しています。

There is no substitute for hard work. (勤勉に代わるものはない)

同じ「頑張る」という行為でも、やらされて取り組むのか、それとも自分の意思で前向きに取り組むのかで、大きな違いが生まれます。

学校生活でも同じことが言えます。「言われたからやる」「やらされている」のではなく、前向きに主体的に学習や生活に取り組むこと。これこそが、子供たちに伝えたい hard work の精神です。

本校では、令和6・7年度台東区教育委員会研究協力学校として「Well-being な社会を目指して個別最適な学びと協働的な学びを実現する生活科・総合的な学習の時間の授業づくり」という研究主題のもと、実践を積み重ねてきました。目指す児童像の一つに、「学びを楽しむ子」があります。子供たちが自分の思いや関心に基づいて問いを立て、課題を見付け、方法や計画を自ら考えて探究するプロセスを重視してきました。

現在、中央教育審議会において、次期学習指導要領に向けた方向性が示されています。そこでは、子供の Well-being を支える教育課程の構築が重視され、知識や技能の習得にとどまらず、自分らしさを発揮し、他者とつながりながら、豊かな人生を自ら切り拓いていく力を育むことが、今後の教育の重要な役割とされています。

10月10日(金)には、本校で研究発表会を開催します。子供たちが前向きに、主体的に探究する姿をぜひご覧いただければと思います。

私たち大人もまた、子供たちと共に学び続ける存在です。仕事や家庭での毎日は決して楽なものではありませんが、「どうすればよりよくできるか」を考え、前向きに行動することで、同じ労力でも充実感や達成感が違ってきます。子供たちは、そんな大人の背中を必ず見えています。

「ハードワーク」とは、苦しみを耐えることではなく、自分の未来を切り拓くための前向きな努力。その精神を胸に、子供たちと共に、この実りの秋を過ごしていきたいと思います。